

ハーブティ

～女と男をかんがえる～ ハーブティ:「ハーブ (herb)」は薬草のことで、茎や葉を生あるいは乾燥して使います。これが心と体にバランスのとれたよい刺激を与えることから、女と男も互いにバランスのとれたよい関係であるように、また一杯のお茶から地域のネットワークも広がれば…という願いがこめられています。

はじめに

前号 (vol.27, 平成24年3月号) は、チェックリストで、各家庭での災害時の備えや心構えを確認し、災害時に役立てるためには日ごろから家族みんなで話し合うことや、絆のたいせつさを認識しました。

9月1日は防災の日であり、このvol.28の発行日であることから、前号に引き続き「防災」に関するテーマを取上げることにしました。

編集会議で、わたしたち編集委員の身近な人の中にも、避難所生活はしていないものの、あの3.11の東日本大震災で厳しい体験をした人がおり、その「生の声」を生かせないか話し合いました。

「生の声」を聞く中で、災害発生から時間の経過とともに、個人だけでなく家族・近隣の人・地域社会などとの「絆」が防災に欠かせないことに、改めて気づかされました。また、災害時における情報の入手や発信、特にインターネットや携帯電話の使い方(「情報活用」)、地域の「防災環境」(避難所、防災倉庫、避難ルートなど)について、男女の意識度に違いがあることに課題を感じました。

そこで、今回、意識度に違いのあった「情報活用」と「防災環境」の2つを「絆パズル」の「ピース」に見立てて考えてみました。

情報活用



家族とどの伝言サービスを使用するか話し合うこともたいせつです。

なお、災害用伝言ダイヤルや災害用伝言板サービスは、毎月1日と15日などに体験できます。

【生の声】伝言サービスの使い方が分からなくて確認できなかった。

【生の声】パソコンは操作が難しく、どう使っているかわからなかった。

絆

【生の声】インターネットは情報が多すぎて、どのページを見ればいいのか分からなかった。

パソコン



壊してしまいそうで怖いし、面倒……。男性に任せたほうが安心だわ。

【生の声】伝言サービスに伝言を入れたけど、確認してもらえなかった。

パソコンの操作をすべて頼まれる。嫌がらないで、女性もやってみればいいのに。

～パソコンでの情報収集と活用について～

インターネットに接続されていれば災害時に必要な情報が見られるパソコン。

しかし、使いこなせていますか?

災害時にも使いこなすには、日ごろから男女問わず「使う努力」が必要です。

また、多くの情報の中からどのように身近な情報を得るかも重要です。

情報が豊富だからこそ、チェーンメールや誤った情報に注意して必要な情報を見つけるようにしましょう。

まずは、苦手意識をなくして、家族みんなでやってみませんか?

町の防災に関する情報は、安心安全課/白岡町で検索!!

【生の声】避難所がどこか分からなかった。

ふだんは会社が忙しくて、近所の交流は女性任せ。

うちでは防災グッズを準備したらしいけど、どこに置いてあるのかな?

避難所

白岡町では19か所が指定されています。自分たちが住んでいるところはどこに避難すればいいか家族みんなで、確認しておきましょう。

いざという時、家には子どもと私だけかもしれないから、ご近所と協力して避難したほうがいいかも。

子どもを抱えて重い荷物を持って避難所まで行くことができるか不安だわ。

【生の声】衛生用品や子どものオムツ、ミルクは準備していなかった。

防災倉庫

指定されている避難所のうち、11か所に設置されています。食糧や毛布などを備蓄しています。

地震や洪水のハザードマップを目につくところに置いておきましょう!

防災環境

おわりに

震災後のさまざまな報道の中で、何度も「絆」という言葉を耳にしました。人と人がそれぞれ家族、地域、社会などにつながっていることを改めて感じました。また、「防災」を考えてみると、人と人との「絆」だけではなく、防災対策に欠かせない、いくつもの条件(「ピース」)で成り立っていることにも気づかされました。わたしたちが今回挙げた「情報活用」、「防災環境」のピースもそのひとつです。

わたしたちはそれを、「絆」という言葉を「パズル」という形で表現しました。もちろん、「絆パズル」は、この2つのピースだけではなく、自主防災組織にどう携わっていくかなど、さまざまなピース(条件)が必要であり、防災の本来の目的を実現するためには、それらの「ピース」がすべてそろって、本来の防災が成り立ち、「絆」も成立するのだと思います。

あなたの身近にもきっと絆のピースがあると思います。「ピース」を満たすためには、性別を超えて、日ごろの意識を変えていくことも必要です。たいせつな人たちと自分や家族の命や身体を守るために、1つひとつ備えてみませんか。

編集後記

◆今回、ハーブティの編集に携わったことで、改めて男女共同参画ということの難しさを知りました。編集を通じて、人として、女性として成長していけたらと思います。(山口 宜子)

◆ハーブティが関係するテーマはたくさんあります。日ごろから性別に関係なくいろいろなことに関心を持ち、取り組んでおく必要性を強く感じました。(内山 欣春)

◆男女共同参画という内容は難しいものですが、分かりやすく伝えられるようにがんばりたいと思います。(南波 紀子)

「ハーブティ」は、公募の委員のかたが、一から考え、読みやすく工夫をしながら作成しているページです。

新メンバーで作成した第1号。ご意見、ご感想は編集委員の励みとなりますので、お寄せいただければ幸いです。

ハーブティ vol.27 (H24.3月号) についてもお問い合わせください。

問合せ 市民協働課 内線385

Email kyoudou@town.shiraoka.lg.jp